学校番号	3010

令和5年度 工業（プロダクトデザイン） 科

教科	工業	科目	プロダクトデザイン実習	単位数	4 単位	年次	2 年次
使用教科書	自主編成教材						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

２年プロダクトデザイン実習では、デザインスケッチやパッケージの制作、プレゼンテーションのための写真撮影、制作に必要なコンピューターワークについての実習を通して、発想力、構成力、表現力の向上をめざします。実習では特にアイデアスケッチ、試作のプロセス、作品制作に関わる真摯な態度と提出期限を重視します。
履修条件
なし

2　学習の到達目標

・プロダクトデザイン分野に関する技術を実際の作業を即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする
・プロダクトデザインの技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として化学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う
・プロダクトデザイン分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	プロダクトデザイン（工業分野）のもつ社会的な意義や役割を理解し、人と技術との関わりを踏まえて、関連するデザイン能力や造形表現能力を身に付ける。	プロダクトデザイン（工業分野）の各分野の技術に関する課題を発見し、プロダクトデザインに携わるものとして、現代の社会に求められる、応用力を身に付ける。	プロダクトデザイン（工業分野）の各分野に関する技術の向上をめざして自ら学び、その発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	表現と伝達デザイン	・デザインスケッチの技法を習得する。 ・プレゼンテーションで用いる適切なデータ収集と活用について	a:安全で丁寧な作業を行うことができるか。また、それぞれの素材に関して制作過程を理解し作業を行うことができるか。 b:作業工程を理解して適切な時間配分を行いアイデアや制作を行うことができるか。また、諸注意を聞いて安全に配慮しつつ作業を行うことができているか。 c:主体的に協働して取り組むことができているか。	学習状況の観察 実習ノート 作品	学習状況の観察 実習ノート 作品 プレゼンテーション	学習状況の観察 実習ノート
2	パッケージの制作	・パッケージデザインの制作を通して、素材、表現について学ぶ。	a:安全で丁寧な作業を行うことができるか。また、それぞれの素材に関して制作過程を理解し作業を行うことができるか。 b:作業工程を理解して適切な時間配分を行いアイデアや制作を行うことができるか。また、諸注意を聞いて安全に配慮しつつ作業を行うことができているか。 c:主体的に協働して取り組むことができているか。	学習状況の観察 実習ノート 作品	学習状況の観察 実習ノート 作品 プレゼンテーション	学習状況の観察 実習ノート
3	企画	・平面および立体の作品等を展示するために必要な展示手法について学ぶ。	a:安全で丁寧な作業を行うことができるか。また、それぞれの素材に関して制作過程を理解し作業を行うことができるか。 b:作業工程を理解して適切な時間配分を行いアイデアや制作を行うことができるか。また、諸注意を聞いて安全に配慮しつつ作業を行うことができているか。 c:主体的に協働して取り組むことができているか。	学習状況の観察 実習ノート 作品	学習状況の観察 実習ノート 作品 プレゼンテーション	学習状況の観察 実習ノート

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度